

第七幕

登場人物…

ハンプテイ

ダンプテイ

舞台はプロローグと同じ。

第六幕ラストと同一のくすくす笑いで始まる。

あちらはマザー・グース世界でのもの、

こちらは卵内空間でのものなので、

同じ音源を使用するならば第六幕はエフェクトなし、

第七幕はプロローグ同様の反響エフェクトを付加。

双子

「へくすくす笑い〜」

ダンプテイ

「ハッピーエンドになると思った？ ざあんねん！

それじゃあただの童話じゃないか。

物語と然したる違いもない。

そんなつまらない事に僕は手を貸したりしないよ」

ここから『Who Killed Cock Robin』の歌の一部を紹介。

ハンプテイの歌の合間にダンプテイの合いの手が挟まる。

ハンプテイ

♪ Who Killed Cock Robin?

誰が駒鳥殺したの？

『それは私』と雀が言う」

ダンプテイ

「雀、 Sparrow, Arrow」

ハンプテイ

「♪誰が駒鳥看取ったの？

『それは私』と蠅が言う」

ダンプテイ

「蠅、 Fly, Eye」

ハンプテイ

「♪誰が血飛沫浴びたの？

『それは私』と魚が言う」

ダンプテイ

「魚、 Fish, Dish」

ハンプテイ

「♪誰が経帷子作るの？

『それは私』とカブトムシが言う」
 ダンプテイ 「カブトムシ、Beetle, Needle」
 ハンプテイ 「♪誰がお墓を掘るの？」

『それは私』と梟が言う」
 ダンプテイ 『オウル、Shovel』
 ハンプテイ 「♪誰が牧師を務めるの？」

『それは私』とミヤマガラス」
 ダンプテイ 『ミヤマガラス、Book, Book』
 ハンプテイ 「♪誰が付き人務めるの？」

『それは私』と雲雀が言う」
 ダンプテイ 『雲雀、Lark, Dark』
 ハンプテイ 「♪誰が松明持つてくの？」

『それは私』とムネアカヒワ」
 ダンプテイ 『ムネアカヒワ、Linnett, Minute』
 ハンプテイ 「♪誰が喪主を務めるの？」

『それは私』と鳩が言う」
 ダンプテイ 『鳩、Dove, Love』
 ハンプテイ 「♪誰が棺を運ぶの？」

『それは私』と鳶が言う」
 ダンプテイ 『鳶、Kite, Night』
 ハンプテイ 「♪誰が棺衣を持つの？」

『それは私』とミソサザイ」
 ダンプテイ 『ミソサザイ, Wren, Hen』
 ハンプテイ 「♪誰が聖歌を歌うの？」

『それは私』と鶇が言う」
 ダンプテイ 『鶇、Thrush, Bush』
 ハンプテイ 「♪誰が鐘を鳴らすの？」

『それは私』と鶯が言う」
 ダンプテイ 『鶯、Bull, Pull』
 ハンプテイ 「これから始まるお葬式」

ダンプテイ 「杓子定規のお吊い」
しゃくしじょうぎ

ダンプテイ 「何がそんなに悲しいのかしら？」

ダンプテイ 「本当に悲しいのはもっと別な事のはずなのに」

ダンプテイ 「オウル、お墓を掘るのってどんな気持ち？」

ダンプテイ 「レン、どうして君が喪主じゃない？」

ダンプテイ 「いつも死ぬのは何故だか駒鳥」
ハート

ダンプテイ 「毎度、心臓を射抜かれて」

双子 「それがマザー・グースの歌だから？」

ダンプテイ 「歌っただけで死ぬだとか」

ハンプテイ 「軽い命ね。まるで上等の羽根布団」

ダンプテイ 「Birds of a feather?」
バードズ オブ ア フェザー

ハンプテイ 「flock together」
フロック トゥゲザー

ダンプテイ 「それつけたら違う意味になっちゃうよ」

ハンプテイ 「ばれた？」

ダンプテイ 「『同じ羽根の鳥は群れ集う』」

ハンプテイ 「言い換えれば『類は友を呼ぶ』」

ダンプテイ 「常識だよ」

ハンプテイ 「常識ね。ただし、この世界でただけだけど。」

ハンプテイ 「さあ、そろそろ次の幕が上がるわ」

ダンプテイ 「その前にこの幕を降ろしておかなきゃね」

ハンプテイ 「私達もこれで後はお客様」

ダンプテイ 「裏でこっそりお話しよう」

ハンプテイ 「二人で金のリングを齧りながらね」

ダンプテイ 「じゃあ、そういう事だから。」

See you soon」
シーユースーン

ハンプテイ 「その内また会いましょう」

双子 「「無邪気な笑い声」」

これから食べるリングを楽しみにしていると、
 そんな類の極々純粋な子供の感情。

解説..

ダンプティの合いの手の中に出てきているのは、動物の名前＋英語読み＋それにかかる単語。

例えば、最初の雀＝『スパロウ』は『アロウ』を使いロビンを殺したという事になっている。

『Who Killed Cock Robin』の歌は韻遊びの歌であり、登場する動物とその役割は全て韻を踏んでいる。

Ow I ~ Shovelのみ韻になっていないが、この歌ができた十四世紀頃の英語では韻になっていたらしい。

もし読み方が判る人がいれば当時の読み方を使いたい。

監督へ..

些か冗長な気もしますので、

歌を入れるか入れまいか迷っています。

抜いても話は繋がります。

ハンプティとダンプティの台詞量の調整があるので、

削除する場合は改めて修正を入れるつもりです。

♪マークの部分が意外と増えてきたので、

作曲の方がいらっしやるならメロディを下ろして

頂くというのもアリでしょうか。